

# セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク  
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-7

ヒゲさんという生き方 ～ありがとう、ヒゲ!～



おたがいさまビュー P.8-P.11 ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ

ミニレポート P.11

おたがいさまフェスタ 2025 大盛況のうちに閉幕  
昭和女子大学で「ボランティアマナーとコミュニケーションについて」を講義

## ヒゲさんという生き方

## 〜ありがとう、ヒゲ〜

文責／星野弥生（セボネ編集委員）

どこに行くにも「雑居まつり」のエプロン、頭には国籍不明の帽子。それだけで「ああ、あの人」とわかる、ヒゲさんこと澤畑勉さんが、今年の1月7日に旅立たれました。ヒゲさんと言えば「児童館」。「放し飼いの公務員」として、生きづらい子どもたちに寄り添い、たくさんの活動の根底には、「いのちと人権」を守ることがありました。3月23日、船橋児童館

で開かれた「ヒゲさんを偲ぶ会」には、活動の場を共にした人たち、そしてすっかり「大人」になった、元子どもたちが大勢集まりました。語られた言葉の数々は、ヒゲさんの74年の人生をそのまま映し出すものでした。

公務員として55歳まで在籍し、主に児童館がそのベースにはありましたが、世田谷で活動するさまざまなグループや個人を縦



49回目の雑居まつりにて、保坂区長、齋藤有司さんと車いすのヒゲさん

にも横にもつなげて地域ボランティア活動を組織し、世田谷ボランティア連絡協議会の立ち上げにかかわり、地域の人びとが出会う場である「雑居まつり」を作り上げるなど、「放し飼い」ぶりを生涯発揮してきたヒゲさん。雑居まつりは今年50周年を迎えます。50年目の実行委員長は澤畑さ

んと、誰もが異議なしで決めました。車いすでも、話が出来なくなっても、ヒゲさんがいてくれることがみんなの希望でした。

「雑居まつり」の黒いエプロンは、澤畑さんの正装着、というように、まるで肌のように馴染んでいました。誰かの結婚式の時や葬儀の時には、いつものではなく、新しいエプロンをしていました。そのエプロンが写真とともに飾られた偲ぶ会には、世田谷だけでなく、全国からヒゲさんに「ありがとう」を言いたい人たちがたくさん集まりました。

30年前に、親、教師、行政などの立場を超えて子どもにかかわるさまざまなグループや個人が繋がった「世田谷こどもいのちのネットワーク」、そこから具体的に地域で子どもをサポートするシステムを作ろうとした日本初の「チャイルドライン」。あらゆる場にヒゲさんの姿があり、世田谷から全国津々浦々にチャイルドラインの種を蒔いてきたヒゲさんはその相貌さながら「花咲じいさん」のようでした。

ヒゲさんに「育てられた」元若

者の佐藤有樹さんが司会をした偲ぶ会。ヒゲさんを語ることは、そのまま世田谷での子どもを中心にしたボランティア活動や市民運動を語り、振り返ることにもつながります。

## 子どもたちを 決して見捨てなかったヒゲさん

偲ぶ会で口火を切ったのは、区長の保坂展人さん。「区長でも国會議員でもなかった80年代の終わりごろから、子どもの現場に誘われました。そのうちに世田谷のボロ市のころに、ボロ塾という名の話し合いが始まったのがきっかけで、月一回、深夜まで語り合う会が2〜3年続きました。そんな時、「ヒゲ〜」と子どもの金切り声。澤畑さんは警察にとんで行き、子どもの身元引受人になったりしてました。まちでも学校でも排除されていた若者たちがヒゲさんのところに飛び込んでいた。

世田谷ボランティア協会の理事長だった牟田悌三さんが中央教育審議会の専門委員になり、世田谷でのいじめの実態を知りたいと、

世田谷での子どもに関わる活動や居場所を作っていく、いじめでないのを失くすような子どもを出さないように「いじめよ、とまれ!」というシンポジウムを行いました。

その後、イギリスのチャイルドラインを牟田さん、澤畑さん、天野さん、星野さんと私の5人で視察・学習に行くことになりました。もちろん澤畑さんは、エプロン、帽子を肌身離さずでした。大使が高級ホテルのレストランでのランチに招待してくださった時、お付きの書記官が気をもむ中、直前になんとヒゲさんは初めてエプロンを外したんです。みんな呆気に取られていましたね。

世田谷では今年、「子どもの権利条例」が誕生しました。30年前にヒゲさんと話していたことを、今の子どもたちが話し合っただけで作ったということヒゲさんに報告したいです。徹底的に若者と付き合い、真夜中にも車を運転していました。横顔、背中を見せてくれた彼でしたが、身体を酷使しすぎたかもしれません。住む世界が離れてしまったけれど、これが

「私も一緒に歩んでいきたいです」。

羽根木プレーパークの初代プレーリーダーで、プレーパークを全国に広めてきたヒゲさん同様の「全国区」の天野秀昭さんは、「今年の6月は、雑居まつり、プレーパーク、自主保育が同時に50周年を迎える記念すべき月。世田谷の市民運動、社会全体の運動を根底から変え、自分たちの手で生活の中から始まったのがこの3つでした。市民運動の50年を共に考えたい」と話しはじめ、「プレーパークは、大村虔一・璋子夫妻が緑道で自分たちの子ども問題として始めたことに端を発します。ヒゲさんは、これはボランティア活動、市民運動なんだと虔一さんに教え、国際児童年に区も動いて、住民と行政との協働作業となりま



1996年第1回目の「いじめよ、とまれ!」にて天野秀昭さんとヒゲさん

した。そこに最初に常駐したのが僕です。子どもの遊びに関わりたく、日本青年奉仕協会で「365ボランティア」を始めたら、奉仕協会の理事だったヒゲさんが、葛飾から世田谷に僕を送り込んだ。プレーパークや雑居まつりのことを滔々としゃべる横柄なもの言いがむかついて、この人と一緒にやると喧嘩になるぞ、と思ったけれど、話の筋が通っているのはびっくりしました。

雑居まつりでは彼の周りに、教師には絶対に従わないだろうな、という若者たちがいました。プレーパークでもヒゲの周辺も、子どもたちの中からでくるエネル



川崎の夢パークで、西野博之さんとヒゲさん

ギーはストレートだった。大人の世界にいと人は曲がっていきそうなんだけれど、子どもたちが僕らを正してくれた。ヒゲさんにもそういうことがいっぱいあったと思います」。

1986年から学校へ行かない子どもや生きづらいう若者たちの居場所づくりを行い、川崎でフリースペース「たまりば」を立ち上げ、川崎市子ども夢パークの<sup>新</sup>長を開設計時から務めてきた西野博之さんも、ヒゲさんの背中をずっと見ながら子どもの文化を川崎に根付かせてきました。

「今やっていることは、ほとんどが世田谷で始まりました。チャイルドラインも、プレーパークを夢パークに作ったのも。ヒゲさんのいた児童館の文化が豊かでしたね。『子どもたちが聴いてもらったと思わないと、こっちが話を聴いたことにはならないんだよ』といつもヒゲさんが言っていた言葉を研修の時には必ず伝えていきます。子どもの思いを本当に受け止めるとはどういうことかを、全身全霊で教えてくれました」。

草津温泉に若者たちと夜の10時過ぎに行つて「入るぞ！」とヒゲさん。その時に佐藤有樹に会いました。有樹は「どんなにヤンチャなことをしても、澤畑は決して俺たちを見捨てない」とポロポロ泣きました。こういう若者を育てたんだと、夢パークがオープンした時に、シーバルク（農業用ビニールシートを張り合わせて作られた、空気で膨らませた巨大な遊び空間。澤畑さんはこれを全国で展開していました）でお祝いをしてくれた有樹をその場で「えん」のスタッフに入れてしまいました。人をつなぐ天才でしたね。ヤンチャな人たちにとって「絶対に裏切つてはいけない大人」だったのがヒゲさん」。

<sup>まほのやよい</sup>星野弥生、「神戸の大震災から1年後に、世田谷からボランティア活動をするために駆けつけたグループや個人に声をかけて「神戸をわすれない・世田谷」の第1回目の集会を行った時、それまで直接話したことのないヒゲさんがいたんです！ この人だったんだ！ それからは世田谷での「ごども

や「教育」に関わる活動やプロジェクトでは、ほぼ一緒の場にいさせてもらいました。」

染色家の斎藤洋さいとうひろゆきさんは京都から駆け付けました。「『野染め』は何万人もの人たちと行ってきた私のライフワークです。」一番回数が多かったのは児童館。30年前に会って、いろいろな児童館に呼んでくれたのが澤畑でした。東北への野染めの旅をずっと続けていましたが、コロナも明けた一年前、三陸を周ろうと、歩くのが相当しんどかったヒゲさんが「行くー!」と。ちいせいかい(磯谷さん)がヒゲの手を離さなかった最後の野染めの旅でした。去年の11月に町田の施設にいたヒゲさんを訪ねた時、ほとんどしゃべれない。嬉しそうな顔



ヒゲさんと野染めの旅

をするけど、何を話したらいいのかわからなかった。帰ろうとした時に、下に着ていた野染めのTシャツを見せてくれた。「着ているよ」と。おおきに、ヒゲさん!

大沢健治おおさわけんじさんは区の児童課で児童館を管理していたので、放し飼いの公務員だったヒゲさんの飼い主? 烏山児童館にヒゲさんがいた時の館長でした。「その頃はよく理解が出来ていなかった。でも、澤畑さんからその後の生き方を教えてもらいました。今は自分のできることを住んでいる自治体で行動に移しています。」

ヒゲさんとはとても近い現場にいつも一緒にいたいっちゃんこと市川行康いちがわゆきやすさん。「子どもたちへの向き合い方を、ストレートに言わず、そっと見せてくれたのが澤畑さん。子どもと向き合うのではなく、自分自身と向き合うということを教えてもらいました。さうって『それはいつちゃんの心の問題だ』と言われた夜は一晩考えましたね。」

シンナーを吸っていた少年が家庭裁判所によれば、澤畑さんは地域の大人として意見を言わせてほしいといつもエプロン姿で行きました。僕はジャージー。少年院送りがいいとは限らないと滔々と述べました。おっかない顔をした主任調査官は、試験観察にしてくれ、松本の神宮寺、筑摩工芸研究所に一年半いることに。週に5回くらい往復し、僕の手は1年に10万キロ走った。車の中で語ってくれたことに、残るワードがいくつもあります。」

ボランティア連絡協議会の拠点のあったボランティア活動センターに45年くらい関わってきた藤田真一ふじたまことさんは「雑居まつり宣言」は、みんなで協力してやろうと碓井すい(英一ひでかず)さんや澤畑さんが作りました。澤畑さんはあんなに仕事をしているんだといつも感心していました。」

### 僕らを信頼してくれた

後半では、かつての子どもたち、ヒゲさんに育てられ、更生

(?)し、今や大人になった子どもたちが語った数々の言葉が胸にじんと沁みました。

まえからのりこ  
前川典子さん「16の時に出会っ

て、ドツポにはまりました。父親が厳しくて、暴力をふるい、家を出なくてふらふらしていた私をいろんなところに連れて行ってくれ、家に一か月ほど泊めてもらいました。神宮寺で草むしりなどもしました。青春18きっぷの旅を思い出します。父親には悪いことをしたなあ、と思い、今、息子一人に仕返しをされているようです。



エプロンのそばで司会をする佐藤有樹さん

ヒゲは、本当に父親のようでした。最後に町田で会えてうれしかったです。ヒゲが空の上からみてくれていると思うと、悪いことはできません」。

ふじもちりけんじ  
藤森健至さん「3才の時から児

童館で育ち、自分の子育ても船児です。会社で、藤森さんの強みってなんですか？と訊かれた時に、『超フラットなコミュニケーションです』と船橋児童館の話をしました。悪いヤツでもフラットに話せる船児、ヒゲさん、ありがとうー」

くまのりゅうた  
熊野竜太さん「幼児サークルの

頃から船児で育ち、小6の夏休みにヒゲさんと直接会いました。『ヒゲと青春の旅』で広島に行き、中学生の時はほぼ365日、昼前からここに来てましたね。性格、人格、信条、すべて人間形成はオヤジから学んで教わりました。僕を作ったのはオヤジ。大切な仲間と大切な時間をこの場所で過ごしました。だからすごく寂しい。ユーモアがあって、冗談しか言わない。給料計算の時はイライラして

いて、そばで僕らが麻雀しているのと、「おい、ちょっと替われ」。子どもや立場の弱い人には目線を下げ、権力に対しては強烈に立ち向かっていました」。

しまむらひび  
嶋村仁志さん(通称メダカ)

は30年前に羽根木プレーパークで常駐のプレーリーダーでした。「相談に乗ってもらおうと、直接に、ああせい、こうせいとは言わない。『お前の中で決めた結論だけを子どもに言っちゃだめだ。途中のこともみんな話せ』と、まづ子どものことを考えてましたね。それから『どうだ、食えているか?』『頼まれたことをやっているうちは仕事っていわないんだぞ』。川崎の夢パークの研修でヒゲさんは、『子どもか、それとも子どもを連れに来る教師のどちらにつくか』と問いかけていた。出会いの中で人がつながっていく、思い出をたくさんつくる、それがヒゲさんのスピリッツでしょうね。」

司会を務めた佐藤有樹さんは、初めて信頼できる大人に出会う



## 車いす利用者の付き添いにご協力いただける方募集

世田谷2丁目にお住いの70代男性が出かける際に車いすを押してくださる方を探しています。男性は読書や音楽鑑賞、人と会話することが好きな方です。男性とお話を楽しみながらお出掛けに付き添ってくださる方、お待ちしております。①または②の活動をお願いします。

●日時／

①水曜か金曜 14時～16時（2週間に1回）：自宅からスーパーでの買い物や図書館経由で帰宅

②火曜 14時30分～16時30分（月1～2回程度）：病院からスーパーでの買い物経由で帰宅

●場所／世田谷・上町近辺

●交通／東急世田谷線上町駅徒歩7分程度（ご自宅まで） ●条件／性別不問

●問合せ／北沢ボランティアビューロー 担当 小島 TEL：03-3420-2520

メール：kitabora@otagaisama.or.jp

## 車いす使用の男性の生活と仕事のサポート募集

重度障害者で電動車いすを使用の60代男性が、ご家族が不在の時間、自宅で身の回りの家事と仕事のサポートをしてくれる方を求めています。掃除、布団干し、資料・文献の整理などをお願いしたいです。「障害学」をはじめ、社会福祉分野の研究をおこない、大学などで講師をしている、明るく楽しい方です。

年齢・性別不問。資格不要。日時は応相談。詳細はお問い合わせください。

●日時／応相談 ●場所／世田谷区千歳台3丁目

●交通／小田急線千歳船橋駅または京王線千歳烏山駅

●問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 久我 TEL：03-6411-4007

メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## 一緒に登下校を付き添ってくださるボランティア募集

中学1年生が、自宅から中学校までの登校または下校に付き添ってくださる方を必要としています。生まれつき体が小さくて中学校までの道のりを歩くのに不安があります。また、教科書など重い荷物を持つのは体に負担があるため、1人で登校するのは難しい状況です。

現在、家族が仕事を時短勤務にして付き添っていますが、どなたか手伝ってくださる方がいると助かります。週1回からでもありがたいです。詳しくはお問合せください。

●日時／【登校】平日は7時30分自宅待合せ→8時頃学校着

【下校】水曜15時、月・火・木・金は16時、部活動日は18時に学校前にお迎え

※週1回から、登下校どちらかでも可。時間は応相談。

●場所／自宅（奥沢地区）と中学校との間 ●交通／東急大井町線

●条件／女性、交通費支給

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

## 4歳男児と日曜日に遊んでくださる方募集中！

長年夫の介護を抱えている70代女性が4歳になるお孫さんの育児を担うことになり、手助けを必要としています。男の子は平日保育園に通っています。今のお気に入り車、恐竜、虫、花など。日曜日に近所の公園や児童館などで1～2時間遊んでもらえると助かります。時間は応相談。上用賀在住です。まずはお問い合わせください。

●日時／日曜日 1～2時間程度。時間は応相談 ●場所／世田谷区上用賀

●条件／交通費実費支給（上限500円）

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

### 3歳の女の子の保育園の送迎をしてくださる方を探しています

3歳の女の子の保育園の送迎をしてくれる方を探しています。お母さんが一人で頑張ってきましたが、病気を患いこれ以上無理ができません。医師からも痛みなどの症状が出やすいので十分気を付けるように言われています。女の子は、機関車トーマスや乗り物が大好きな人懐こい明るいお子さんです。週1回だけでも、【送り】か【迎え】を手伝っていただくと助かります。詳しくはお問い合わせください。ご連絡をお待ちしています。

- 日時／【送り】平日7時15分に自宅に迎えに行き保育園まで送る。  
【迎え】火曜のみ16時30分頃に保育園に迎えに行き自宅まで送る。
- 場所／自宅（上野毛駅近辺）～保育園（等々力駅より徒歩約10分）  
おしゃべりを楽しみながら25分程度の道のりを歩きます。用意してあるベビーカーに乗るので歩いて移動するよりも安全です。
- 交通／東急大井町線上野毛駅 ●条件／女性、交通費は出ません
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528  
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

### 小学校3年生といっしょに勉強をしてくれる女性募集中！

駒沢公園近くにお住まいの小学校3年生の女の子が特に漢字で苦戦しています。明るい女の子です。宿題などに楽しく取り組めるよう、女の子のペースに合わせて一緒に勉強してくれる方、ご連絡お待ちしております。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月・火・木・金の16時～17時（月2～4回 1回1時間）
- 場所／駒沢公園近くの自宅
- 交通／東急田園都市線駒沢大学駅 ●条件／女性（数名募集）、交通費応相談
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528  
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

### デイ・ホームでのお手伝いボランティア募集！

世田谷区粕谷にあるデイ・ホーム芦花（特別養護老人ホーム芦花ホーム1階内）では、洗い物や片付けのお手伝いや、利用者さんの傾聴をしてくださるボランティアの方を募集しています。月曜から土曜のご都合のよい日で受け付けています。詳細は下記へお問い合わせください。

- 日時／月～土曜日9時から15時の間、1時間から（時間は応相談）
- 場所／芦花ホーム内（世田谷区粕谷2-33-1）
- 交通／京王線芦花公園駅下車 徒歩約7分
- 問合せ／デイ・ホーム芦花 担当 枝 TEL：03-5317-1091  
メール：m\_eda@setagayaj.or.jp

### 子育てパートナー（家庭訪問スタッフ）募集

認定NPO法人バディチームは児童虐待防止を目的に「家庭訪問型子育て支援」を行っています。内容は、保育・遊び相手・掃除・料理・保育園送迎・学習のお手伝いなど、様々な事情で子育てに大変さを抱えているご家庭に寄り添う活動です。子育て・家事・ボランティアの経験が活かせます！世田谷区の子どもたちのためにあなたの力を貸してください！活動地域は、主に世田谷区内です。詳細はお問い合わせください。

- 日時／週1回 2時間～OK ●場所／主に世田谷区内のご家庭
- 条件／報酬：1,200円～/時、交通費支給（上限有）
- 問合せ／認定NPO法人バディチーム 担当 宮田 TEL：03-6457-5312  
HP：<https://buddy-team.com/>

上記掲載記事は5月17日時点の情報です。  
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## 災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@昭和女子大学

2025年度1回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を昭和女子大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

- 日時／6月7日（土）13時30分～16時30分 ※13時より受付開始
- 会場／昭和女子大学（世田谷区太子堂1-7-57）
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅徒歩7分 ●参加費／無料
- 申込／5月1日（木）～6月5日（木）までに、右記の二次元コードから、またはメールか電話にてお申し込みください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター TEL：03-5712-5101  
メール：saigai-info@otagaisama.or.jp



## もっと語ろう不登校 part.301

これまで31年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お問い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／6月7日（土）14時～
- 場所／NPO フリースクール僕んち（世田谷区代田4-32-17）、またはZOOM会議
- 交通／小田急線世田谷代田駅徒歩6分 ●参加費／300円
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋  
TEL：090-3905-8124 メール：fsbttoru@yahoo.co.jp

## シニアITサポーター・サロン

シニア層のIT支援に現在関わっている人々やこれから活動したい人々が集い、交流・研鑽する「シニアITサポーター・サロン」を設立します。ITスキルを持っている退職シニアの地域社会でのIT支援活動へのボランティア参加を促進します。ITスキルを持つシニア人材が世田谷地域で活躍することで、デジタルデバイドを感じている高齢者がデジタル機器に不便を感じず、多世代と日常的に繋がるスマート社会の実現に貢献しようという有志の集いの場です。

今年度は、世田谷区高齢者社会参加促進支援補助事業として参加費は無料で毎月1回、全6回の「シニアIT指導者サロン」を開催する予定です。毎回、IT分野の著名な講師を招き、講演と懇談会を実施し、参加者のITスキル向上と交流を促進します。

- 日時／6月15日（日）10時～12時、7月6日（日）13時～15時、9月21日（日）10時～12時
- 会場／いずれもキャロットタワー5階・生活工房セミナールーム
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅 ●参加費／無料
- 条件／ITスキルがありボランティア活動をしたい人
- 問合せ／パソコンクラブ優遊会 TEL：080-6847-1796  
メール：ny1@ion-net.co.jp

## AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER「ジーバー」）で結び付け、経験や希望に合ったボランティア活動を紹介します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



## 市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)

●問合せ/最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。

電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

## 個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101

メール: v-soudan@otagaisama.or.jp

## 個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦勞をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101

メール: v-soudan@otagaisama.or.jp

## <ミニレポート> おたがいさまフェスタ 2025 大盛況のうちに閉幕

4月19日に開催した「おたがいさまフェスタ 2025」はたくさんの方にご来場いただきました。また、出店団体や多くのボランティアのみなさまのご協力を、本当にありがとうございました。

2002年から毎年開催していましたが、最後のフェスタとさせていただきます。今後は、下馬周辺の多くの施設や団体が連携し開催している「極楽フェス」など、引き続き地域の絆を深めていくイベントを開催していきます。(写真撮影: 谷 浩二)



## <ミニレポート> 昭和女子大学で「ボランティアマナーとコミュニケーションについて」を講義

4月23日に、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科1年生「ソーシャルワークプロジェクトⅠ」の講義で、「ボランティアマナーとコミュニケーションについて」と題して、世田谷ボランティア協会の役割や、ボランティアをするうえでのマナーやコミュニケーションの大切さについて協会職員が講演しました。

「社会をよりよくするために、自分に何ができるか考え、自分から行動する人がボランティアということにとっても共感した」、「講義やワークを通じて、改めてコミュニケーションの大切を感じた。電話やメールのマナーも知ることができてよかった」など、たくさんの方の感想をいただきました。



約100名の学生が熱心に受講してくださいました。

上記掲載記事は5月17日時点の情報です。  
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## 世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



### 相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】  
災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】  
リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】  
訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】  
介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】  
障害について ▶ 【ぼーとせたがや、スペース ココカラ。】

協会職員大募集/  
作業療法士 訪問介護員  
支援員 相談員

※寄付は任意参加

### ご寄付のお願い

- クレジットカード
- Amazon Pay
- 銀行振込

お支払い方法が  
選べます。

寄付金控除を受けられます



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。